

四洲戦
争の我
國労働
運動の
趨勢

かを崩壊の危機に近づかし、それと同時に無産階級
運動の飛躍的進展を見ることが、一方に於て支配階
級は必死の勇を揮ひ、現制度の維持に努力し、無産
階級に對しては、假借はる彈壓の及を振らつてゐる。
翻つて欧州大戦後、我國労働運動を見るに、無産階
級勃興の世界的氣運に刺激せられて、我國の労働組合
は、非常なる意氣と自熱的なる奮闘とを以て、階級闘
争に参加して來た。之れに依つて我國労働階級の戦闘
分子は労働階級解放の目的と使命とを十分自覺し
するに至つた。我國の労働階級は長き間因襲の眼に
に在つたが、其の一部は、大正八年後に於て、明に總衆明

の鐘に激起したつたのである。而して今日まで、幾多の試練
を経て、漸く戦闘的労働組合の基礎を確立するを得
たのである。

理想と
現実

然れども我等が過去の闘争過程を回顧するに、深き
反省の實となるべきものあるを痛感せざるを得ない。吾
等は動もすれば實力と現実とに立脚するより、理論を追
小傾向の多少あつたことは明かである。吾等は底力のある
堅實な組織を作り上げることに意を用ゐずして、性
急に理想の實現を圖らんとした。爲めに、我等の
運動方針と戦術とは、潔癖と生硬に禍されたる
實の多かつたことを認めざるを得ない。之れ我國が資